

第3回会議（令和4年4月7日開催）議事のポイント

- 当地区のまちづくりの方向性としては、渋谷・青山の地域特性を踏まえることも重要であり、「まちづくりの基本的な取組事項」、「地域特性」、「ポストコロナのまちづくりの視点」の3段階で整理することが考えられる。
- 業務商業地である渋谷に、こどもの城があったことに意義があったように、フレキシブル、ダイバーシティと「Well-being」は密に関係する。「働く・住む・遊ぶ」場所の機能分担がなくなることは、社会の在り方として健全ではないか。
- 将来の不確実性への対応という意味だけではなく、日常的な時間軸での変化を受け止められるという意味も含まれる。具体的な空間の検討においては、ユーザーを想定することが重要。「Flexible」という言葉についても工夫が必要。
- 「リアル」を「デジタル」にコピーする従来の流れから一歩進んで、まずバーチャル空間で、まちづくりの選択肢を可視化し、その中から実現すべきリアルを選択するという関係を作ることはいできないだろうか。
- 東京の中心地の一つで、デジタル技術を活用すればスローな東京の実現も取り込めるのではないか。